

信条

本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。(会則第3条)

法政大学社会学部同窓会報

法政大学社会学部同窓会

発行人 中正美(同窓会会長)
編集人 赤池慎一(会報委員長)
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
法政大学4号館社会学部A棟11階
TEL・FAX 042-783-2421
http://www.hoseisoc-dousokai.jp/
郵便振替口座 02東京00140-1-63762

Vol.68

優秀卒業論文受賞者4名を表彰!

社会学部同窓会支援「社会学部卒業祝賀会」



優秀卒業論文表彰の小海老澤菜々子さんと高橋慧さん(同右側、堀川ゼミ)。前列左端は金井学部長、後列左側は平塚真樹教授、同右側は堀川三郎教授、前列右端は中正美社会学部同窓会会長

3月24日午前中に日本武道館で行われた学位授与式(社会学部卒業生728名)に引き続き、恒例の「法政大学社会学部卒業祝賀会」が、午後2時過ぎより市ヶ谷キャンパス薩埵ホールで開催されました。この祝賀会の開催にあたっては、社会学部同窓会が補助金(10万円)による支援をしています。また、同窓会長名で優秀卒業論文表彰を行いました。(関連記事3面)

生成AIと多摩キャンパスの値打ち
〜新年度にあたって思うこと〜

社会学部長 金井 明人

私は、当初は2025年度のみの学部長の予定でしたが、引き続き28年3月まで(26・27年度)学部長を務めることになりました。どうぞよろしくお願い致します。



金井 社会学部長

1年間学部長を経験して、特に会議などで話題になったことといえば、多摩キャンパスの活性化と共により、生成AI(人工知能)について話題にしました。学部でも教授会懇談会を行いましたし、大学全体でも



新しい門出を激励する中会長

「激動の時代、希望を持って」(中会長)
卒業祝賀会当日は、糸久正人教授の司会で開会が宣言され、最初に社会学部同窓会中正美会長より、「皆さんは東日本大震災、コロナ禍を体験し、今現在は世界で進行している戦争を見ている。そんな中でも希望を持って力強く生きて欲しい」という祝辞がありました。卒業生の皆さんは、この区切りの日までの様々な出来事振り返るかのよう、熱心に聞き入る姿がありました。



優秀卒業論文表彰授賞式



盛り上がった祝賀会

優秀卒業論文に選ばれたのは、加藤ららさん(メディアア社会学科)「レズビアン欲望の表象の可能性」視線と身体をめぐる試み、小原紗弓さん(社会学科)「なぜ人は消防団に参加するのか」『コミュニケーション』『サードプレイス』の三概念から、高橋慧さん(社会学科)「多摩ニュー

「AIに使われるな」(金井学部長)
その後、鈴木麻美教授の乾杯発声、歓談と祝賀会らしい華やかな会となり、後半には応援団・吹奏楽部の演奏が会場を盛り上げました。応援団のリーダー部、チアリーディング部の力強さも印象的でした。閉会にあたり、学部長の金井明人教授から、激しく変化する社会に旅立とうとする卒業生に、お祝いの言葉と共に「AIに使われる人になっ

タウンにおける運動参加の論理と構造」語りから見えるマクロ・メゾ・ミクロの三層に注目して」、小海老澤菜々子さん(メディアア社会学科)「母語を失うということ」家庭内コミュニケーションと子どものアイデンティティの変容」でした。同窓会長より受賞者4名(2名欠席)に賞状と記念品(Amazonギフトカード)が贈られました。受賞者代表のあいさつで高橋慧さんと小海老澤菜々子さんは、お世話になった先生方や家族への感謝の言葉と共に、この優秀卒業論文表彰の授与者である社会学部同窓会への感謝の言葉を述べられました。

す。私が言いたいのは、「生成AIに使われるな」ということに尽きるのではないかと思います。もちろん、どんなに利用していく分には良いのですが、その可能性と限界を深く考察していただくこと、また、倫理的かつ自分なりの特色ある生成AIの使い方を考えていただくことを願っています。

生成AIに問いかけると答えてくれることでもあるのですが、生成AIは、多摩キャンパスに人間的身体として入構したことはありません。それゆえに、多摩

キャンパスの魅力は生成AIには真の意味では理解していかないのではないかと、私は考えています。逆に言えば、多摩で学ぶ、ということとは、それだけで生成AIを超えている、と言い換えることができるのかもしれない。

私は着任して23年目の多摩キャンパスを、学部長として迎えることになりました。多摩の樹木の、季節による変化を体感することを、私は一貫して愛し続けていますが、特に緑の深い季節に惹きつけられます。私の金井ゼミでは、5月に社会学部棟と現代福祉学

Since 1984 多摩キャンパスに集まろう! 社会学部のOB・OGたち!!
法政大学社会学部同窓会 2026年度定期総会 2026年(令和8年)6月13日(土)開催
*10時30分 バスターミナル集合
オプション企画「多摩キャンパス中心部見学と社会学部A棟最上階、同窓会室を訪ねる」(仮称)
*12時00分 昼食会(社会学部A棟1階 多目的ゼミ室)
昼食弁当(1個1,000円を予定)、事前申し込み制
*15時00分 懇親会
参加費5,000円予定(総合棟1階 食堂)
*16時30分終了
*13時00分~ 2026年度 定期総会・記念講演会(社会学部B棟102教室)
☆記念講演会「社会&地域の課題に向き合い、SICで活躍する社会学部生たち」
講師: 樋口明彦 法政大学社会学部教授、SIC(法政大学ソーシャル・イノベーションセンター)副センター長
問い合わせ用メールアドレス、電話番号
法政大学社会学部同窓会 事務局
hoseishado2421@gmail.com
TEL・FAX 042-783-2421(同窓会室は月曜閉室)
メールによる連絡を歓迎します。



左右対称が美しい、総合棟(奥側)と図書館・研究棟(手前)
法政大学の校舎で最高峰「社会学部A棟」(多摩キャンパス4号館)
芸術家 北一明氏(社会学部卒)によるモニュメント「泉-不戦の誓い」(社会学部A棟)

学生インタビュー

やりたいことを全部やる大学生活



4月5日「相模原市民まつり」で城山観光協会のお手伝い、シイタケを販売中

城山地域(相模原市)でボランティア活動

「しろやまふれんず」代表 川村 英慈

社会学部社会学科3年(糸久正人ゼミ)

出身地と法政大学社会学部への入学理由は？
東京都大田区出身で自宅から通学しています。入学の理由は、個人がそれぞれ違う考えを持っているのについで、社会を形成していることと興味を持ち、社会学を

学んでみたいと思ったからです。

—SICで活躍されているとのこと。活動について教えてください。

SIC(法政大学ソーシャル・イノベーションセンター)では、多摩キャンパスの学生が、大学近隣の町田市・八王子市・相模原市の3つの地域でボランティア活動をしています。自分は相模原市緑区の城山地域で「しろやまふれんず」



川村英慈さん

というグループ約60人の代表です。子ども食堂・e-bikeサイクリングツアー・小学校でのクリスマス会・夏祭り手伝い・他地域行事に様々な形で関わっており、お手伝いをしています。大学から毎年15万円の助成金をいただき、多世代交流の機会を創出すること、また城山地区の魅力発信を目指しています。

この活動を始める前、自分自身肯定感が低く、社会にどう貢献できるか、その存在意味に悩んでいました。しかし、「あなたの活動がこの地域のためになっている」と言われ、感謝してもらえ嬉しさと共に人とのつながりの大切さを意識することができました。そこから社会への所属意識と共に自己肯定感も格段に上がりました。

多様な価値観、知と知の触れ合い 新しい言語・文化の学びから

高橋 愛 教授 (担当科目…フランス語科目、「表象文化論A」、「地域研究(ヨーロッパ)」)



教授 登場

たのを覚えていきます。

専門分野はフランス文学・文化史で、自然主義文学を代表する作家エミール・ゾラを中心に研究してきました。多作なゾラのペル・ソラを中心に研究していただいた一冊を含む、『ゾラ・セレクション』(藤原書店)が昨年第61回日本翻訳出版文化賞を受賞したことは大変嬉しい出来事でした。

『ドレフュス事件 真実と伝説』(ともに法政大学出版局)などを上梓しましたが、執筆者として参加させていた一冊を含む、『ゾラ・セレクション』(藤原書店)が昨年第61回日本翻訳出版文化賞を受賞したことは大変嬉しい出来事でした。

2011年に法政大学社会学部に着任しました。以前は少人数教育の大学で教えていたので、15学部を有する法政大学の中でも大規模な社会学部の教育はどのようなものかと思いましたが、実際に教えはじめたら、教員と学生の距離も近く、楽しく授業ができて安心し



26年度「フランス語1B(文法)」の授業の様子

さまざまな学習機会を提供し、一部独自の制度を利用してフランスへ短期留学した学生も16名おり、パリ、アンジェ、リヨン、ルーアンで学びました。現在、文部科学省が主導する「トビタテ!留学JAP」AN 新日本代表プログラムの第17期生としてエクスマルセイユ

ユダヤで学生団体のフードバンクのボランティア活動に参加している学生、学内の選考試験(日本語およびフランス語)に合格し、今年の秋から法政大学派遣留学生として所属ゼミの研究テーマをリヨン第三大で深める予定の学生など、深い成果を世界で存分に発揮し、いろいろなことに果敢に挑戦しながら活躍の場を広げてほしいです。新しい言語や文化を学ぶと、さまざまな物事を複眼的に眺められるようになり、多様な価値観、知と知の触れ合いが生み出す協働的な学びの楽

しさをより深く実感できるようにになります。日本でも出来ることもたくさんありますので、学生が新しい関心や何かしらの目標を持つきっかけとなるような授業を心がけ、今後も努力したいと思っています。

法政大学はダイバーシティの取り組みに熱心で、社会学部にも多様な背景を持った学生たちが今後ますます入学するでしょう。将来的に、本学部の卒業生ネットワークにおいても力強い発展を促し、豊かな広がりをもたらすだろうと明るい希望を持っています。

聞き手 高橋敏副会長

社会学部卒業生のみなさん 交流と連携を深めましょう! 在校生のみなさん 業界研究・就職相談も歓迎します!

株式会社 日本ビジネスマッチング

代表取締役 三上 純昭 昭和53年(1978年)3月 社会学部 社会学科 卒業
体育会スケート部スピード部門OB会 会長
株式会社バイク王&カンパニー 取締役 監査等委員



国際証券(株)[現 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)] 企業開発部長を経て、平成13年(2001年)11月、㈱日本ビジネスマッチングを設立

会社を設立し24年が経過しました。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-9 須藤ビル4F

URL: www.matching.co.jp

MAIL: mikami@matching.co.jp

2025年度社会学部優秀卒業論文表彰 受賞論文と受賞者コメント(本文記事1面)

〈2025年度社会学部優秀卒業論文〉

氏名(学科)	論題(タイトル)
高橋 慧 (社会学科)	多摩ニュータウンにおける運動参加の論理と構造——語りから見えるマクロ・メゾ・ミクロの三層に注目して——
小椋 紗弓 (社会学科)	なぜ人は消防団に参加するのか「コミュニティ」「ヴォランティア」「アソシエーション」「サードプレイス」の三概念から
加藤 らら (メディア社会学科)	レズビアン欲望の表象の可能性—視線と身体をめぐる試み—
小海老澤 菜々子 (メディア社会学科)	母語を失うということ—家庭内コミュニケーションと子どものアイデンティティの変容—

〈受賞した学生からのコメント〉

高橋 慧.....
地域内外の問題を解決するため積極的に運動に参加する多摩ニュータウンの人々と出会い、運動研究を通して「なぜ自分は問題意識を行動に移すことができないのか」というかねてからの問いに向き合うことに決めました。大量のデータを分析してまとめあげるのは容易ではありませんでしたが、腹の底からの問いをもって1970年代の運動参加者が何を思い生きてきたかを調査し考えた経験は、私の人生の糧となりました。地域の皆さまをはじめ多くの方々のご協力のもと書き上げた4年間の集大成である本稿を優秀卒業論文に採択していただき、大変嬉しく思っています。

小椋 紗弓.....
当初は「サードプレイス」への関心から、フィールドとして「消防団」を選択しました。執筆中は方向性で悩むことも多々ありましたが、偶然のきっかけで「消防団」という存在に出会い、想像もしていなかった研究の広がりを感じられた得難い時間でした。この出会いを大切に今後は大学院という新たな場で、「消防団」と精一杯向き合っていきたいと思っております。ご協力いただいた消防団員の皆さま、ご指導いただいた鈴木先生に深く感謝申し上げます。

加藤 らら.....
以前から関心を寄せてきたテーマで卒業論文を書き上げることができたことを、大変嬉しく思います。現在、同性婚訴訟が最高裁大法廷で判断されることが決定するなど、日本社会はひとつの転換点を迎えています。しかしその一方で、不安定な世界情勢のなかで排他的な傾向も強まるとは言えません。本論文で取り上げた多くの映画が描いてきたように、社会のあり方によって引き裂かれる同性カップルがこれ以上生まれない未来が、近い将来に実現することを願っています。

小海老澤 菜々子.....
自分の大切な身近な人に関わる問題に向き合いながら論文を書くことは、正直、とても苦しい経験でした。何度もやるせない気持ちになり、現実の重さに戸惑うこともありましたが、この問題に限らず、私たちの身の回りに、まだまだ知らないことや気づいていないことがたくさんあります。だからこそ、まずは向き合ってみようと思ってきました。身近な一人を大切にしたいと思ってきました。積み重ねが、やがて社会をより良くし、世界を少しずつ変えていくのだと信じています。最後に、4年間支えてくださったすべての方々に、心から感謝しています。

小海老澤 菜々子.....
自分の大切な身近な人に関わる問題に向き合いながら論文を書くことは、正直、とても苦しい経験でした。何度もやるせない気持ちになり、現実の重さに戸惑うこともありましたが、この問題に限らず、私たちの身の回りに、まだまだ知らないことや気づいていないことがたくさんあります。だからこそ、まずは向き合ってみようと思ってきました。身近な一人を大切にしたいと思ってきました。積み重ねが、やがて社会をより良くし、世界を少しずつ変えていくのだと信じています。最後に、4年間支えてくださったすべての方々に、心から感謝しています。

小海老澤 菜々子.....
自分の大切な身近な人に関わる問題に向き合いながら論文を書くことは、正直、とても苦しい経験でした。何度もやるせない気持ちになり、現実の重さに戸惑うこともありましたが、この問題に限らず、私たちの身の回りに、まだまだ知らないことや気づいていないことがたくさんあります。だからこそ、まずは向き合ってみようと思ってきました。身近な一人を大切にしたいと思ってきました。積み重ねが、やがて社会をより良くし、世界を少しずつ変えていくのだと信じています。最後に、4年間支えてくださったすべての方々に、心から感謝しています。

小海老澤 菜々子.....
自分の大切な身近な人に関わる問題に向き合いながら論文を書くことは、正直、とても苦しい経験でした。何度もやるせない気持ちになり、現実の重さに戸惑うこともありましたが、この問題に限らず、私たちの身の回りに、まだまだ知らないことや気づいていないことがたくさんあります。だからこそ、まずは向き合ってみようと思ってきました。身近な一人を大切にしたいと思ってきました。積み重ねが、やがて社会をより良くし、世界を少しずつ変えていくのだと信じています。最後に、4年間支えてくださったすべての方々に、心から感謝しています。

小海老澤 菜々子.....
自分の大切な身近な人に関わる問題に向き合いながら論文を書くことは、正直、とても苦しい経験でした。何度もやるせない気持ちになり、現実の重さに戸惑うこともありましたが、この問題に限らず、私たちの身の回りに、まだまだ知らないことや気づいていないことがたくさんあります。だからこそ、まずは向き合ってみようと思ってきました。身近な一人を大切にしたいと思ってきました。積み重ねが、やがて社会をより良くし、世界を少しずつ変えていくのだと信じています。最後に、4年間支えてくださったすべての方々に、心から感謝しています。

小海老澤 菜々子.....
自分の大切な身近な人に関わる問題に向き合いながら論文を書くことは、正直、とても苦しい経験でした。何度もやるせない気持ちになり、現実の重さに戸惑うこともありましたが、この問題に限らず、私たちの身の回りに、まだまだ知らないことや気づいていないことがたくさんあります。だからこそ、まずは向き合ってみようと思ってきました。身近な一人を大切にしたいと思ってきました。積み重ねが、やがて社会をより良くし、世界を少しずつ変えていくのだと信じています。最後に、4年間支えてくださったすべての方々に、心から感謝しています。



小林直毅先生の最終講義。田中優子名譽教授をゲストに対談を交えて行われた。



小林直毅先生

来し方を振り返って

苦手な教育に鍛えられた研究

法政大学名誉教授 小林 直毅

定年退職というのは、細る行く末を自覚させ、高く積もった来し方を振り返らせる節目なのかもしれない。

社会学部専任教員としての私の勤務歴は十八年と、

必ずしも長くはない。ただ、兼任講師を九年勤めたし、学部生、大学院生では十年在籍していた。そうした散らかった歳月を足し上げると、社会学部との縁は三十二年に及ぶ。振り返るには十分な来し方がありそうだ。そこに一貫した信念のような偉そうなものはないが、ずっと変わらなかったのは、するの、されるもの、「教育が苦手」だったことだろう。入学して嬉しかったのは、ほとんどの授業に押しつけがましい教育臭が感じられなかったことである。みずからの学び、研究への誘いが第一とされていく。担当教員が研究者として

て良質な研究成果を積み重ねているからこそ、そのような授業が実践されていたことはいうまでもない。では、大学教員の良質な研究とは、どのようになされるのか。ここで来し方を振り返ると、講義であれゼミであれ、大学の授業が研究を鍛えてくれたように思う。どんなにもっともらしく講義をしていても、話しながら、ときに「これは弱いな」と感じることもある。ゼミで学生と議論しても、どこかきちんと説明できていないように感じられる論点がある。それらは学生の理解力不足だけではなく、むしろ自分自身の研究

の不十分さ、弱点に起因することが少なくなかった。こうした経験は、「教育が苦手」の身には、教育をより良くさせるのではなく、研究をより良いものにさせてくれた。サービスマン化した「分り易い授業」とか、学生顧客主義に冒された「満足度の高い授業」などまっぴらだった。大学がいつの間にか研究教育機関から教育研究機関へと変貌しているのも我慢がならなかった。研究こそが大学の出発点にして終着点であるという考えは今でも変わっていない。そんな研究至上主義者にとって、それほど大切な研究を鍛えてくれたのは、じつは苦手な教育だったのだ。そしてそのような教育の場でもとに学んでいったのは、後輩でもある社会学部の学生だった。

初めまして

英語学習の心理的障壁の軽減について研究

社会学部社会学科准教授 小林 ゆみ

今年度、社会学部社会学科に着任いたしました小林ゆみと申します。担当は英語です。心理学を学ぶためオーストラリアの大学・大学院へ進学し、心理カウンセラーとして従事しておりましたが、帰国後より英語教育に携わっております。もともと英語に苦手意識があり、学習に苦労したからこそ教えることにやりが

いを感じる一方、自身の英語に對し不安を抱えておりました。そのような中、完璧さより相互理解を重視する「リソガフランク」としての英語の視点に出会うことにより、自分の不安軽減にもつながったことから、その知見を深めるべくイギリスの大学院で学び直ししました。現在は、英語学習にお

ける心理的障壁をいかに軽減できるかについて、教育心理学の観点から研究しております。

社会学部の学生は、物おじせず英語で話そうとし、海外への関心も高く、日々刺激を受けております。学生の皆さんと共に学び、共に成長できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

初めまして

エスニシテイの長期的推移や共生社会のあり方を研究

社会学部社会学科専任講師 鄭 康烈



鄭 康烈先生

社会学部社会学科に着任しました、鄭 康烈(ちよんかんり)と申します。専門は移民研究、エスニシテイ論、在日コリアン研究です。人の国際移動を

前提に、エスニシテイの長期的推移や共生社会のあり方について研究しています。これまで、日本学術振興会特別研究員PDとして早稲田大学大学院アジア太平洋研究科に所属し、研究を続けてきました。

法政大学では、「国際社会学」を担当することになりました。グローバル化や

人口移動が進む現代社会では、異なる背景を持つ人びとと共に生きることが、ますます身近な課題となっております。授業では、多文化が共存する状況を単に理屈として学ぶだけでなく、学生がそれらを自分自身の経験や日常とも結びつけながら考えられるよう工夫していきたいと思っています。

多摩キャンパスの環境にも少しづつ慣れ、通勤を含めた日々の生活にも愛着がわいてきました。法政大学ならではの文化を学びつつ、同僚の先生方や学生の皆さんとともに、マイペー

スに研究・教育を深めていければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

本当のゴルフスイングとゴルフクラブを考える。

上位をめざすアマチュアゴルファーからの相談歓迎!
ゴルフに興味関心のある、学生の皆さんもお気軽にどうぞ

ゴルフスイングトレーナー 緑川 秀章 1979年3月卒業 社会学部 社会学科、平野 秀秋ゼミ



私はゴルフグッズショップで働きながら、レッスンプロとしても活動してきました。ずっと考え続けていたのは「本当のゴルフスイングとはどのようなものか」ということでした。2009年頃、あるゴルフクラブメーカーから試打会の誘いを受けました。参加してみると、メーカーの担当者には、私に提供するドライバークラッシュのグリップエンドの丸い部分を削ぎ、シャフトの内部に小さい部品のようなものを長い針金で設置し始めました。こうした専門家による細かい調整がスイングに大きく影響することを学びました。ゴルフクラブのシャフトには内径にスパインという尾根みたいなものがあって、同じ規格の商品でもその現実にはバラバラです。シャフトを構成するスチールでもグリップでも平板を丸めて接続すると必ず「肉厚部分」ができてしまうことは

在学中、平野先生の「社会的現象は必ずそれを論証出来る理由が存在する!」という授業が胸に刺さりました。また、中野収先生のこともよく覚えております。当時、平野ゼミ(社会学)と中野収ゼミ(情報の理論)は兄弟のような関係でした。中野先生の『ビートルズ現象』(紀伊國屋書店、1978年)は、世の中の流行を法則としてとらえた興味深い本でした。平野ゼミの社会学も流行文化を工学的にとらえていたのが重なるところがありました。

◆スイングスポーツ研究会(主宰:緑川秀章)
〒314-0121 茨城県神栖市溝口4873-402
TEL: 090-1732-5075 deakun3520@ymail.ne.jp

東西南北

会員の 短信から

※卒業年は3月時点に記載しています。

【広島県】

広島市

75年卒 辻井 正典

(更生保護法人・中国地方更生保護協会事務局長
中国地方更生保護施設連盟事務局長)

「反省なら一人でもできるが、更生は一人ではできない」犯罪をした人が孤立することなく社会の一員として生活できるようにするために、どうしても協力者が要する。

日本の犯罪件数は、現在、戦後最低レベルで推移する中、同じ人に再犯させないことを喫緊の課題として国も平成29年「再犯防止推進計画」を策定、様々な施策を実施していますが、ボランティア(無給非常勤公務員)である保護司が中心的役割を担っていることは変わりません。再犯させないことはその対象者本人のためだけでなく、地域社会の安全につながります。

令和8年1月の同窓会報「シヤカイ人」に掲載された渥美哲夫先輩の25年に渡る保護司活動の間には様々な苦勞があったことと思います。何度も怒り、失望することがあったと思います。それでも対象者に寄り添う。何人が、その後犯罪

れていること、同じ時代、社会に生きるものとして心より敬意を表します。機会があれば社会学部学生達にも話を聞いてもらいたいですね。(事務局)

【埼玉県】

越谷市

58年卒 横山 隆一

1954年麻布入学、55年市ヶ谷新校舎、58年東洋一の屋上、新講堂で卒業式、大内兵衛総長の「諸君！勝つて下さい」は今でも心の励みになっています。90路を越えてもまだまだ人生勉強。村山学部長の温顔も何時までも忘れません。

人生の中で、4年間本当に楽しかった。スポーツ、イマイチですがその他社会学部の名があがる度に誇りを感じています。社会学に栄光あれ!! (村山重忠ゼミ)

※90歳を超えて「まだまだ人生勉強」という力強いお言葉。私を含め、同窓生のほとんどは横山様から見たら笑える鼻たれ小僧です。法政での4年間培ったその精神、見習いたいと思う小僧が多数いると思います。(事務局)

【千葉県】

柏市

61年卒 中村 一廣

会報67号有難うございました。今回から編集人が赤池慎一氏に変わりましたね。

※辻井様、前号記事の渥美様、どちらも大変にご苦勞の多いお仕事に従事させていただきます。

私は以前より「インスタグラム」を拝見していましたが、近ごろ法政大学の記事と大好きな相撲記事も多くなり、楽しみが増えました。(増島宏ゼミ)

【東京都】

練馬区

84年卒 植田 孝良

あいかわらず、入院が続いていますが、病院に本を出版元から送付してもらおう形です。社会学の勉強をしています。「高田保馬リカバリ」、富永健一著「戦後日本の社会学」一つ

の同時代学史、佐藤俊樹著「社会学の新天地」ウエーバーからルーマンへ、大塚久雄著「社会学の方法」ウエーバーとマルクス、エミール・デュルケム著「社会学的方法の規準」、フェルナンズ・ド・ソト著「ゲゼルシャフト」等

の本を勉強していくところ。 (稲増達夫ゼミ)

体が一日でも早くご回復されることをお祈り致します。(事務局)

【神奈川県】

渋谷区

57年卒 太田 昭郎

66歳まで働いて自由人になりホッとしたつけ。家庭をもち子供が生まれ更に孫を抱いたとき、孫の可愛さ理屈ぬき、なんて諺を思い出した。社会人になってから2、3度神宮に足を運び区切りの回やエールの交換時に校歌を歌って法政の学生を感服した。何歳になっても私の体には法政卒の意識がめぐり回っている。

※同窓会では、年2回、六大学野球観戦を企画しております。観戦後は他の同窓会と一緒に神宮界隈で一杯やるのが恒例です。残念ながら法政は長く優勝から遠ざかってい

ますが、変わらぬ応援歌、校歌と一緒に応援しましょう。(事務局)

会に参加して下さっています。今年もきつと元気なお姿で、ご参加いただけるものと思っております。定期総会にぜひご参加いただき、11階建ての社会学部棟で学生時代を振り返ってはいかがでしょうか。(事務局)

【神奈川県】

川崎市

78年卒 仲田 広道

11月下旬神宮外苑のイチョウ並木を見たあと家内と法政ミュージアムに行こうと思いましたが、デジタルで歴史がまとめてあり、とても見やすく分かりやすいものでした。

職員の方が「卒業生ですか？」と尋ねられたので「78年卒で野球部が江川投手等の活躍で8シーズン中5シーズンが優勝、まさに行けば必ず勝つという黄金時代でした」と話しました。

※67号に掲載が間に合わず申し訳ありません。法政野球の黄金時代、その復活を夢見て応援しましょう。5月16日、ぜひ、神宮球場においでください。(事務局)

がなかったもので、一度ゆくりと見てみたいと思っております。そんな企画があればと思います。法政交響楽団の協力をもらってプチコンサート付の会などどうだろうかと思う次第。日時があえば長く会っていない同窓生を誘って参加したいものです。ご検討下さい。CS(校友会事業)の落研などもよいかと思います。(中林賢二郎ゼミ)

【神奈川県】

横浜市

76年卒 越川 弘三

大学を卒業して50年、社会も大学も激しい変化と「変わらない者」としては様々に思うことがあります。さて、社会学部卒業ですが、多摩キャンパスには縁

が、多摩キャンパスには縁が、多摩キャンパスには縁

が、多摩キャンパスには縁

新人正会員の紹介

(受付期間：2025年10月～26年3月)

- 10月入会 高埜 聡之 (1990年卒 鷺見友好ゼミ)
- 12月入会 塚田 成幸 (1988年卒 中林賢二郎・五十嵐仁ゼミ)
- 1月入会 辻井 正典 (1975年卒 中野収ゼミ)
- 星野 雄次 (1974年卒 平野秀秋ゼミ)

株式会社グレイスアセットマネジメント

代表取締役社長 **仲田 広道**

〒215-0007 神奈川県川崎市麻生区向原1-7-11
TEL 044(952)3023 携帯 080-9571-8326
E-mail : nakada2656@gmail.com
1978年3月卒 中林賢二郎ゼミ

※本年度定期総会は、多摩キャンパスで開催します。越川様の提案企画、まずは財源、そして集客、CS事業の一つとして検討中です。神奈川県内、特に横浜市からは多くの学生が通っていて通学圏内です。散歩ついでに、気軽には、本年度総会にご参加ください。(事務局)

村串 仁三郎著 (元法政大学経済学部教授)

近著『われわれはなぜ富士山登山鉄道に反対したか』

(時潮社定価2,200円)

1959年3月卒 長谷川博ゼミII部

中央A | 専門学校
中央福祉医療専門学校
中央アートスクール

理事長 校長 **宮杉 早苗江**

本部〒323-0022 栃木県小山市駅東通り2-24-28
TEL 0285 24 1571 FAX 0285 24 2522 msanae@peach.ocn.ne.jp
http://www.chuo-fukushiryu.ac.jp http://chuo-art.jp http://chuo-ai.jp/
1970年3月卒 田沼肇ゼミ

25年11月～26年3月

皆さまからお寄せいただいたご厚志に心から感謝いたします。

(敬称略)

1	2
坂本 徳子	植田 孝良
徳子	森田 靖也
美園 幸夫	石川 光彦
美園 幸夫	赤池 慎一
美園 幸夫	中野 正典
美園 幸夫	仲田 広道
美園 幸夫	依田 博子
美園 幸夫	武井 透
美園 幸夫	福田 伸夫
美園 幸夫	坊野 秀美
美園 幸夫	高橋 知宏
美園 幸夫	高橋 敏
美園 幸夫	宮崎 心太
美園 幸夫	松井 次郎
美園 幸夫	綿引 幸男

HIG 代表取締役 **濱岡 公治**

1976年3月卒業 陸上ホッケー部

有限会社 エイチアイズ
〒734-0023 広島市南区東雲本町1丁目8番2号 HAMAOKA.BLD 201
TEL (082) 890-8060 FAX (082) 890-8066 携帯090-8996-2096
E-mail hig1218@gmail.com
事故・故障24時間安心ダイヤル0120-024-024

法政大学社会学部同窓会 監事
法政大学2部九条の会 世話人
ガザとウクライナに平和を！核戦争反対！

司法書士 **木村 誠**

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-7 翔和多町ビル2階
TEL 03-3256-7058 / FAX 03-3251-2205
1977年3月卒 土生稔ゼミ

法政大学社会学部同窓会

幹事 **藤永 正順**

自宅〒733-0815 広島市西区己斐上3-3-28
TEL 082-272-5534
1957年3月卒 中島正ゼミ

法政大学体育会水泳部顧問
法政大学法友体育会事務局長
法政大学監督会事務局長
法政大学校友会スポーツ部会長

総監督 **山重 美登士**

1971年3月卒業
税理士法人 山重会計事務所
〒244-0816神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1000番地
TEL 045-864-1666

社会学部での学び、就職活動での苦戦が今の事業へ

グローリンク株式会社 代表取締役 中藤 美智子

1997年3月卒
社会学部
応用経済学科

点と点のつながり

大学進学時、母の祖母への介護の大変さを目の当たりにし、将来は社会福祉士になりたいと考え社会学部を選択しました。大学では、海外にも関心があったことから英会話サークルに入り、また八王子にあるボランティア団体に参加し、少年院や女性保護施設にて少年、少女の心のサポートをする活動をしていました。とにかく興味を持ったことには何でも飛び込んでいきました。

■大学卒業時の選択
改めて社会学部に関する仕事をしたいと考え、公務員を目指しました。しかし、勉強が手付かずで公務員試験は全て不合格でした。遅いタイミングで民間企業に切り替

え、就職活動をスタートしました。ただ公務員以外に何がしたいのか見つけられず、応募しても不採用通知ばかりで、私は世の中に必要とされていないのだと落ち込む日々でした。そのような中、大学掲示板の「初の新卒者募集。学生の就職支援事業の立ち上げ」という求人が目にとまりました。就職活動に苦戦していた私は、「私のような思いを誰にもして欲しくない」と強く思い応募をしたところ、その思いが通り即内定となりました。

■就職後の苦戦
しかし、4月を迎えた時点で当事業が赤字のことで、新入社員はいきなり行き場がなくなり、営業会社に出向となりました。その後本社に戻

り、英会話スクールの立ち上げに携わり、外国人の雇用管理などを任せられることになりました。そこから、人の採用にも関心を持ち、採用支援の会社に転職をし、中小企業の経営者の方へ求人媒の営業を行い、新卒採用の支援を行わせていただきました。

■社会情勢の変化による転職
2社目の経験から人と企業をつなげる仕事をしたと考え、通訳翻訳者の派遣、業務を請け負う会社に転職しました。海外出張を経験したり非常にやりがいがありました。しかし、2009年のリーマンショック、11年の東日本大震災で状況が一変し、多くの派遣スタッフが職を失いました。

た。その時に、どうしたらその人たちを救えるのか上司に相談したところ、キャリアコンサルタントの資格取得を勧められ、取得しました。その後は、より専門性を磨いていきたいと考え退職をし、大学のキャリアセンターにて数年勤務をし、その後独立をしました。

私は初めから独立起業をしようと考えてはいませんでした。しかし、目の前の課題をどう突破するか考えたり、興味があることに飛び込んだりしていくことで次につながっていききました。

振り返ると今の仕事は、学生時代に思い描いていたことにつながっていると思います。「今やっていることは、やがて未来につながる。そう信じてこれからも行動していきます」。

シャカイ人 OB・OG



中藤美智子さん

<プロフィール>1974年、新潟県長岡市生まれ。法政大学卒業後、生涯教育事業を柱とする教育関連会社へ入社。その後採用支援会社での新卒採用コンサルティング、人材派遣・紹介会社でのキャリアアドバイザーの経験を経て、国家資格キャリアコンサルタント資格を取得。2017年グローリンク株式会社を設立。人材育成、キャリア形成支援事業を展開している。

私論 論

同じ地球の上で起きている現実 先進国の豊かさの裏側で 電子廃棄物で生計も

石藤 愛

(2008年卒・メディア社会学科、丹羽ゼミ)



ガーナで記念写真。一番右端がご本人

近年、環境問題は広く語られるようになりましたが、「環境に良いこと」はしばしば「正しさ」として提示される一方で、それによって生計を立てる人々の現実や、経済としてどう成立させるのかといった視点は、十分に議論されていまいやうに感じています。

私が関わる西アフリカ・ガーナのアゴボグロシーは「電子機器の墓場」とも呼ばれ、先進国から持ち込まれた電子廃棄物が集積する場所。そこでは人々が廃棄物を燃やして金属を取り出し、生計を立てています。有害な煙にさらされながら

も、それが生活の手段となつている現実があります。私自身も初めて現地を訪れた際、先進国の豊かさの裏側にある光景に強い衝撃を受け、同じ時代、同じ地球の上で起きているにもかかわらず、どこか遠いものとして扱われていることに違和感を覚えました。

▼単なる環境問題ではなく 現場は人権・生活の問題
こうした現場に触れる中で、これは単なる環境問題

ではなく、人がどのように生きるかという人権の問題であり、同時に生活を支える経済の問題でもあると実感しました。正しさを掲げるだけでは行動は変わりず、生活を支える仕組みとして成立しなければ、社会には根付かないからです。

私は現在、アートを軸とした事業を展開する会社MAGO CREATIONに所属しています(2024年入社)。代表の美術家・長坂真護は、廃棄物を素材とした作品を制作し、その売上を現地の雇用や事業へと循環させる取り組みを続けてきました。

私たちは寄付に依存せず、文化・経済・環境を同時に回す「サステナブル・キャピタリズム」という考え方を大切にしています。現在、ガーナではスラム出身の若者を含む100人以上の雇用が生まれています。将来的には、スラム全

域をカバーする1万人の雇用創出を目指しています。社会学部で学んだ、社会の当たり前を疑い構造を捉え直す視点と、「この仕事は何を生んでいるのか」という問いが、現在の仕事を選ぶ上での軸となつていて強く実感しています。

環境問題は単体で存在するものではなく、人の生き方や社会の構造と密接に結びついています。だからこそ、「何を我慢するか」ではなく、「いかに価値を生みながら解決するか」という発想が重要だと感じています。

小川潤(89年3月卒、壽福眞美ゼミ)

私が社会学部に入学したのは1985年でした。入学したら登山を始めたかと思っていたので市ヶ谷キャンパスの新歓イベントでワングルの先輩に出会いお酒をご馳走になりました。た

らふく飲んで酔っ払った翌朝、目覚めたのは初めて会った先輩の下宿でした。山岳部に入学し、先輩・同期と共に日々トレーニングに励みました。多摩キャンパスから往復6、7キロほどの起伏に富んだコースを走り、筋トレをして体力がついていくのが楽しみでした。1年時は講義、山岳部のトレーニングと部会週3回のアルバイトで忙しい日々でした。

春に谷川岳で雪上訓練と

縦走、越沢パトレスでのフリークライミング、11月の冬山登山前の富士山合宿、年末年始の五岳岳、遠見尾根でのスキー登山など山岳部の活動は盛りだくさんでした。

残念ながら勉学との両立に不安があり1年で退部してしまいましたが、山岳部で経験したことは一生の宝

随想 山岳部、ドイツ語履修、刺激的な講義

小川潤(89年3月卒、壽福眞美ゼミ)



山岳部に入部し、先輩・同期と共に日々トレーニングに励みました。

物となりました。今でもトレーニングを続けており、青梅マラソンなどの市民マラソン大会に参加しているのは山岳部時代のトレーニングが楽しかったからです。

一方で社会学部の講義、語学の授業も高校までとは違い楽しい内容でした。第一外国語にドイツ語履修で、ネイティブのドイツ人講師の方から語学を学べる

ことがとても刺激的でした。2年次から壽福眞美先生のゼミに参加しました。ヘーゲル左派、エコロジーなどの社会思想を専門とされていた先生でしたが、不勉強な私は古典的文献を読んでみ

でも消化不良のままでした。それでも先生の気さくな人柄が好きで卒業までお世話になりました。また、船橋晴俊先生の講義で「市場の失敗」「閉鎖的受益権の階層構造」といった事を学んだことも刺激的でした。

卒業後は印刷業などの仕事を経て03年から理学療法士として病院、介護老人保健施設に勤務しました。現在は訪問看護ステーションに所属し、理学療法士としての仕事に従事しています。

法政大学社会学部同窓会
常任理事 **中村 一廣**
自宅〒277-0086 千葉県柏市永楽台 3-8-3
1961年3月卒 増島宏ゼミ

法政大学名誉教授
法政大学社会学部同窓会
副会長 **山岸 秀雄**
携帯090-1461-1525 返子市在住
hideoyamagishi7@gmail.com
1969年3月卒 佐藤毅ゼミ

2026年度 法政大学社会学部同窓会定期総会 議案書概要

【2026年度の基本方針】

- 三つの柱
 - ①同窓生相互の親睦 ②大学・在学生の支援 ③同窓会文化の発展
- 2025年度に引き続き、「会費は在学生のため」を基本理念とした在学生支援事業を積極的に推進していきます。

【新役員候補】

名誉会長	金井明人 (社会学部長)
会長	中正美
副会長	山岸秀雄、星野昌弘、吉川新吾 (事務局長・会報部責任者)、中塚史行、木暮美菜、高橋敏
常任理事	依田素味、郡司貴志、山田幹夫、赤池慎一、茅野恒秀、枝真喜子、桑原政昭
理事	杉原典男、細田泰博、大畑きぬ代、澁澤知宏、武井透、仲田広道、石藤愛
監事	鶴岡明広、木村誠
幹事	藤永正順、小澤雄司
事務局	吉川新吾、高橋敏、金子久美子、米陀清

※下線で示した方々が新しい役員候補です。

【2025年度収支・決算報告にあたり】

掲載の「2025年度収支・決算報告」にある通り、会費・寄付金合わせて予算額より98,000円の減となり、年度末決算では、次年度への繰越金が72万8,294円と、25年度より約12万円の減少となりました。引き続き、運営経費の削減に努める必要があります。

【2026年度活動計画について】

- 総会にて2025年度活動報告と共に、次の活動計画を提案致します。
- 新たな HP 活用事業
- 六大学野球観戦・応援 (春5月16日・秋10月)
- 同窓会報68・69号の発行 (6月、1月)
- 大人のグルメ散歩 神奈川県鎌倉市「鰻のおかむら」(9月26日開催予定)
- 箱根駅伝応援
 - 予選会：昭和記念公園予選会 (10月17日)
 - 箱根駅伝：復路10区、品川駅前にて (1月3日：新年会を開催)
- 卒業行事支援 (3月24日) 卒業祝賀会・社会学部優秀卒業論文表彰
- 「授業：職業社会論支援」社会学部卒業生をゲストとして招聘、謝礼金で支援

【2026年度予算案について】

2026年度の予算計画は、2025年度と大きく変わりませんが、懸案となっているホームページのリニューアル作業を進めるため、社会学部同窓会資産より60万円を捻出する予定です。会員の皆さまには、同窓会の発展と拡大のために必要な経費であることをご理解ください。

社会学部同窓会の運営に参加しませんか！ 「多摩キャンパス世代」歓迎！

法政大学社会学部は昔も今も独自の教育・研究が際立つ学部です。法政愛に加えて、社会学部に愛着を抱く卒業生は少なくありません。そんな方々をつなぐ法政大学社会学部コミュニティづくり。それが社会学部同窓会です。

- 【その1】 新しい出会いがいっぱい！**
卒業生同士や先生方との交流が楽しい。在学生から進路相談があるかも。
- 【その2】 今の大学と学部に関われる！**
法政大学と社会学部の今がわかる。各種行事に同窓会役員として参加できます。
- 【その3】 学部棟の最上階に同窓会室！**
社会学部 A 棟11階に活動拠点。先生方の研究室の隣です。

仕事や家庭など各人の条件を配慮し合い、お互いに助け合い、無理をしない活動にしています。興味を抱いた方はまずはご連絡ください。
法政大学社会学部同窓会 事務局 mail: hoseishado2421@gmail.com

事務局員紹介 26年4月より事務局員に採用された米陀清です。事務局長の吉川さんと前職の同僚で、多摩キャンパスの地元、町田市相原在住ということで事務局員へのお声かけをいただきました。この相原地区は自然豊かな環境で、夏には蛍の鑑賞もできる場所があり、多摩キャンパスより高尾方面へ向かう大地沢には境川の源流地がある緑豊かなハイキングコースもあります。こちらにお越しの際には足を延ばされては如何でしょうか。



「つなげる同窓会」を目指す。1年前よりホームページリニューアルに取り組みますが、会員の皆様方にいまだ公表できずにおりますことを深くお詫び申し上げます。
原因は、ホームページ間の移動に関する技術的な問題です。委託業者と協議を重ねており、突破口を探っております。場合によっては、計画された予算以上の経費がかかるものと思われそうですが、そのあたりも含めて検討し、本年内にはお披露目できるよう努力いたします。そして、

ホームページリニューアルに関してのお詫び

運営の経費削減と「つなげる同窓会」を目指していきます。

鰻のおかむら
岡村 亮 社会学部社会学科1998年卒

〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜 2-4-40
電話：0467-33-6363
営業時間：【昼】11時30分～14時30分 (L.O.14時00分)
【夜】17時00分～20時10分 (L.O.19時30分)
定休日：火曜日(祝日の場合は翌日休み)

同窓会活動の「多摩シフト」を鮮明に ～教授会執行部との意見交換～

社会学部同窓会は4月13日、社会学部教授会執行部との定例の懇談会を行いました。教授会執行部側の参加者は金井明人学部長、糸久正人主任、茅野恒秀主任、高橋愛副主任、社会学部事務課の木田啓介課長でした。学部同窓会からは中正美会長、高橋敏副会長、米陀清事務局事務員が出席しました。



前列左から金井明人学部長、茅野恒秀主任、糸久正人主任、高橋愛副主任。後列左から中正美会長、高橋敏副会長、米陀清事務局事務員

金井学部長からは、総合棟エリアで2号館(大教室A棟)を建て替えて多摩新棟を建設する計画が進行中であることが報告されました。隣接の1号館(総合棟)の改修も行い、新しい校舎による多摩キャンパス活性化訴求が狙い。また、社会学部の長期ビジョン策定に着手する意向も明らかになりました。

同窓会の中会長は3月24日の社会学部卒業祝賀会の成功について「参加人数、内容共に例年以上の充実ぶりだった」とお礼を述べる一方、今期から同窓会活動の多摩シフトを鮮明にする、と宣言しました。その手始めが総会会場を多摩キャンパスに変えること。「先生方のご参加はもちろん、多摩世代の卒業生へのお誘いでご協力を」と訴えました。

次いで、高橋副会長が6月13日の総会当日の開催概要、準備状況について報告。あわせて、正会員(年会費3千円納入)数の推移、同窓会活動担い手の高齢化、厳しい財政状況

を配布資料で説明しました。「多摩世代の卒業生の正会員が少ないのが大きな特徴。活動の多摩シフトを契機に改善したい。先生方からも卒業生に学部同窓会への結集を呼びかけていただきたい」と強調しました。

次年度以降の同窓会総会を秋の多摩祭期間の開催に変更し、総会当日開催の講演会などのイベントで多摩祭の盛り上げに貢献を目指すプランについても紹介。多摩祭実行委員会への相談、首都圏父母懇談会の開催日時との調整、飲酒ルールの確認などの諸準備に入っていることを話しました。

最後に同窓会報の人気コーナー「学生インタビュー」の登場候補について情報交換し、なごやかなムードで定例の懇談会を終えました。

2026年春季リーグ対慶應戦 接戦を制して優勝の可能性残す

2026年5月16日(土)、晴天の神宮球場で六大学野球春季リーグ戦を観戦しました。今回は社会学部同窓会が呼びかけ、経営学部同窓会、法学部同窓会も参加しての合同観戦会。社会学部同窓会からは8名が参加しました。



2対0で母校・法政が勝利



意気上がる応援席

試合は3回に先制した法政が8回に追加点を挙げ、投手陣の踏ん張り度で慶應を完封し2対0で先勝。縮めの校歌斉唱にも力が入りまし



懇親会の様子

観戦後の懇親会には3学部同窓会から計13名が参加し、野球の話にとどまらずそれぞれの近況や学部同窓会の取り組みなどを話題に楽しいひと時を過ごすことができました。

六大学野球観戦のつどい 集まれ卒業生！集まれ在学生！

母校法政の戦績は近年ふるわず、2020年春季リーグ戦の優勝以来、順位は低迷しています。しかし、グラウンドの選手以上に見てほしいことがあります。それは毎試合に、全身全霊で力の限り応援する応援団、チアリーダーの姿です。卒業までの4年間に約80試合の応援をしても、在学中に一度も優勝シーンを見ることなく、それでも声を限りに応援して卒業していく学生達がいいます。

卒業生、在学生の皆さん、まずは球場に足を運び、ゲームへの声援を送ることはもちろん、球場に詰めかける母校・対戦相手の応援団・在学生・OGOBの熱い応援の様子を体感してみませんか。法政の卒業生であること、在学生であることに思いを新たにせず

同窓会では、在学生に補助金を提供する事業を始めました。卒業生も在学生も「今年こそは」と願って一緒に応援しましょう。卒業生はご家族、お子様連れでどうぞお出掛けください。



2026年度「大人のグルメ散歩」のお誘い

2026年度の「大人のグルメ散歩」は9月26日(土)、鎌倉江戸前うなぎ専門店「鰻のおかむら」を訪問します。会報67号で紹介の通り、1998年社会学部卒、岡村亮さんのお店です。

67号会報では「『いつもの事を いつも通り』変わらぬ江戸の味を皆さまにご提供いたします。」という専門店主ならではの言葉とともに、「法政大学社会学部OB、OGの皆様のご来店を心よりお待ちしております。」というメッセージをいただきました。

申し込みの締め切りは8月24日(月)。同窓会ホームページをご参照ください。

2026年度「大人のグルメ散歩」
鎌倉で鰻

9月26日(土) 鎌倉で鰻に
江戸前うなぎ専門店「鰻のおかむら」
※会報67号「卒業生の応援」で紹介

予約受付
電話予約：0467-33-6363 (受付時間：11時30分～14時30分、17時00分～20時10分)
メール予約：binta0185@gmail.com
予約受付期間：8月24日(月)～9月10日(木) 18時迄

法政大学社会学部同窓会事務局

法政大学社会学部同窓会

副会長 事務局員 **高橋 敏**

TEL.090-1802-2908
E-mail: binta0185@gmail.com
1978年3月卒 金山行孝ゼミ

法政大学社会学部同窓会

会長 **中正美**

TEL.090-8586-1242
E-mail:qqkt5de9k@mocha.ocn.ne.jp
1975年卒

法政大学社会学部同窓会

理事 **塩田 利明**

〒347-0012 埼玉県加須市多門寺1153
TEL 0480-68-5118
1967年3月卒 土生長穂ゼミ

拙著『われわれはなぜ

富士山登山鉄道に反対したか』の紹介

村串仁二郎(法政大学名誉教授)



われわれはなぜ富士山登山鉄道に反対したか
山梨県知事の数年「富士山登山鉄道構想」を提起し、スバルライン上に通年営業の登山鉄道と巨大観光施設建設を打ち出した。この構想は、世界の文化遺産、宝である富士山の自然を大幅に破壊するとし、富士吉田市長はじめ多くの市民が反対したため、2024年に知事は富士山登山鉄道を撤回した。本書はその反対運動の記録であり、総括である。(尾瀬自然ネットワーク副理事長大山昌亮)

私は、昨年10月に卒寿の会と拙著の出版祝いをおかねて、ゼミのOB・OG、親しい友人、研究者を60人ほど招待して、終活の一つとして開きました。

拙著と言うのは、昨年10月に出版した『われわれはなぜ富士山登山鉄道に反対したか』です。この計画は、急峻なスバルライン上に鉄道敷設することが技術的に難しい上、厳冬の厳しい風、低い気温、積雪、とくに雪崩のため鉄道運行が難しいだけでなく、何より鉄道敷設、発電施設などのインフラ建設、更に高級ホテルなどの建設を予定している、富士山の自然、環境風景を著しく破壊する恐れのあるものでした。

この計画は、急峻なスバルライン上に鉄道敷設することが技術的に難しい上、厳冬の厳しい風、低い気温、積雪、とくに雪崩のため鉄道運行が難しいだけでなく、何より鉄道敷設、発電施設などのインフラ建設、更に高級ホテルなどの建設を予定している、富士山の自然、環境風景を著しく破壊する恐れのあるものでした。

当然、地元の富士吉田市長を先頭に、富士吉田市民、山梨県民、富士急行の堀内光一郎社長、富士吉田口浅間神社宮司など広範な市民が立ち上がり、反対運動を展開し、2024年11月に知事に計画を撤回させました。

私は、この計画と反対運動を研究していたのですが、私の論文を読んだ富士吉田市長から電話があり、お会いして市長から反対運動を応援してほしいとの申し出を受けました。私は、自分の研究テーマである問題に反対する運動に参加したことはありませんでした。が、市長の知恵袋として富士山登山鉄道反対運動に参加しました。

私は、資料の収集で市長の協力をえて、拙著で、これまでほとんど触れられていなかった、反対運動の実態、運動の難しさや力強さ

社会学部の70年

今後に残したい・伝えたい

「大学生生活の思い出」その2

麻布校舎から市ヶ谷へ

社会学部の設立は1952年。法政大学名誉教授の

を明らかにし、そしてなぜ県知事が登山鉄道計画を中止せざるを得なかったのかの内情を詳しく解明しました。

日本人の心のふるさと、日本の芸術の素材であり、日本だけでなく世界の宝である富士山を破壊から守った運動を記録したこの本を、同窓会の皆さんに是非読んでいただきたいと投稿しました。

麻布校舎時代を経験された卒業生がお二人いらっしゃいました。その一人は58年卒の横山隆一さん。54年麻布入学、55年市ヶ谷新講堂で卒業式、大内兵衛校長の『諸君！勝つて下さい』は今でも心の励みになっています。『東洋一の屋上』とは55年館のことでしょうか。

原案：金山行孝法政大学名誉教授
企画：依田素味(金山ゼミ、社会学部兼任講師)
作画：めむめむ(社会学部4年生、多摩漫画美術研究会)

多摩キャントリビア vol.3

教室機のトリビア 椅子の数はいつも〇〇!

「多摩キャントリビア」とは、多摩キャンパスのこだわりについて、社会学部同窓会キャラクターの「しゃかピョン」と「たまセミ」が「へえ〜そうなんだ」というエピソードを紹介するシリーズです。

受講環境を考えた椅子の数

教室の机にセットされている椅子の数は、大きな教室も小さな教室もすべて奇数になっています。それは、試験の時に1席飛ばしに座るからなのです。奇数ならば、必ず通路側に着席することができます。いろいろな状況を想定して受講環境が考えられているトリビアのうちの一つですね。

机の下にもトリビアが

そして、机の下のパイプ製の物置き棚ですが、少し間隔が広くて物が落ちやすいかな〜と思ったことはありませんか？ 実は、紙くずなどゴミがたまるように、そして板状ではなくパイプ状で透けて見えるため、忘れ物を減らす効果があります。スマホやペンケースのように細長いものは縦にすれば落ちませんよ。置き方を工夫してみてくださいね。忘れ物をしませんように。



原案：金山行孝法政大学名誉教授
企画：依田素味(金山ゼミ、社会学部兼任講師)
作画：めむめむ(社会学部4年生、多摩漫画美術研究会)

55年館は、工学部教授だった大江宏先生による設計で、「これまでのいわゆる『大学らしいアカデミック』な建築様式から脱した能率的な設計、衛生的な環境の良さを考慮した構築方法が建築界でも高く評価されています」(法政大学ホームページより)とされています。

先生方への思い出

横山さんより10年ほどあとに卒業された神田嘉延さん(栢野ゼミ)からは、在学当時の先生方への思い出が寄せられました。

「会員通信での湯川新さん、57年卒の野田剛さん、栢野ゼミ(小生も同じゼミ)ですが、なつかしく昔の思い出が浮かんできました。小生は67年卒ですが、栢野先生に救われて、研究者の道に入っていました。が、大学院生時代は、湯川新さんとの議論をはじめ、学園紛争のなかで、湯川さんのお父さんともお話し、指導も受けて、人間的に成長した実感ももっています。一人前の研究者として育ち、このたび瑞宝中綬章を授与されました。お世話になった人達に感謝しております。」とのこと。

神田様、瑞宝中綬章を授与されたとのこと、誠にありがとうございます。

原稿は居住地の区市町村名、卒業年(3月時点)、氏名、ゼミ名と、連絡先の電話番号、メールアドレスなどを明記して、Fax、メール hoseisho2421@gmail.com または郵送でお送りください。皆さんの原稿をお待ちしています。(会報委員会)

今後に残したい・伝えたい「大学生生活の思い出」原稿を募集しています



一般社団法人 法政大学校友会

終身会員募集中！(終身会員 30,000円) 詳しくはお問い合わせ下さい。

<https://hoseinet.or.jp>

法政大学校友会

検索

会長 竹中宣雄
副会長 田崎 稔
岡本眞司

大森廣行 三井和夫
池谷文雄 田中利幸

中村寿美子 石渡洋行
木嶋伸一 野口みどり

監事 発地敏彦
飯塚 昇
小池邦吉
沖田吉史
坂本考史

事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3 九段校舎4階

T E L 03-3264-1831 F A X 03-3264-4770 E-Mail : jimukyoku@hoseinet.or.jp